

研究主題

自ら課題を設定し、運動の楽しさを味わいながら基礎体力の向上を目指す児童の育成

<学校教育の今日的課題>

- ・様々な変化に積極的に向き合い、他者と協力して解決していくこと
- ・様々な情報を見極め知識の概念的な理解を実現し情報を再構成するなどして新たな価値につなげていくこと
- ・複雑な状況変化の中で目的を再構築することができるようにすること
(学習指導要領解説より)

<教育目標>

- 助けあう子ども
自他を大切にし、人のために進んで行動できる子
- ◎考える子
「はてな」を大切にして、主体的に追究できる子
- やりぬく子
気づき、考え、動くことができる子
- ◎じょうぶな子
心も体も元気でへこたれない強い子

<基礎体力の向上を図る指導の充実>

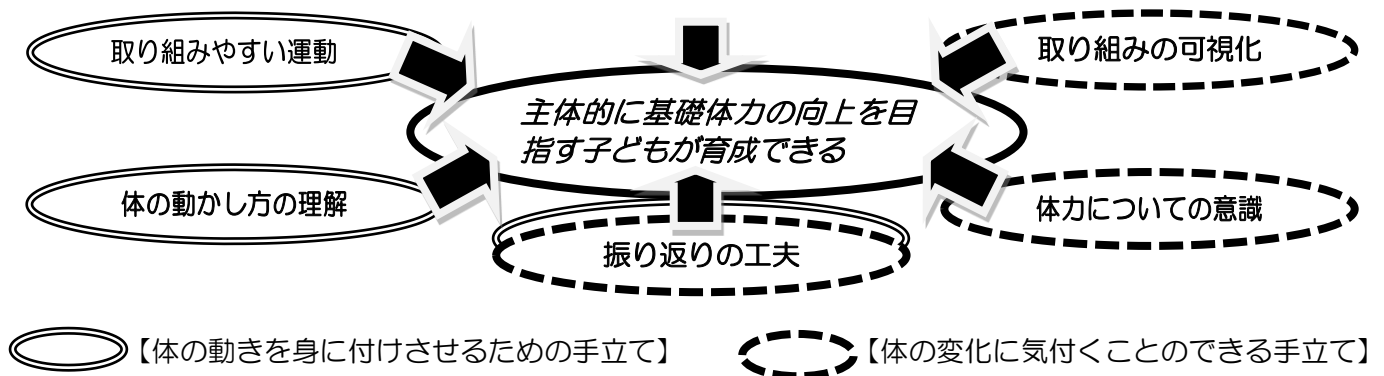
- ・令和5・6年度新宿区教育課題研究校として、体育科を中心に、適切に表現する力の育成に向けた授業改善を図り、授業を実践する。また、朝運動やスポーツギネス新宿、マラソンや縄跳び等、日常的に運動できる環境を整え、無理なく持続的に、身体を動かすことを楽しみながら「基礎体力の向上」を図ることができるようにする。併設幼稚園とともに研究を進めることで、幼小接続9年間を見通した保育指導の充実を図る。

<目指す学校像>

子ども一人一人が自らのよさを実感し、自らの可能性を拡げていける学校の実現

めざす具体的な児童像		
低学年	中学年	高学年
目的をもって運動に取り組み、運動遊びに親しむことのできる児童	運動課題を発見し、基礎体力の向上に向けて、運動を楽しむことができる児童	自己の体力を分析し、運動を楽しみながら、基礎体力の向上に取り組める児童

「研究仮説イメージ図」



(研究の仮説) 児童が自ら基礎体力の向上を目指すために、運動する場所・機会を確保され、体の動かし方がわかるようになり、自分に合った課題で成功体験を積み、楽しみながら運動ができるようになる。また、気軽に取り組める課題が用意され、結果が可視化できれば運動への意欲が向上する。

<研究の視点>2 期目

体の動きを身に付けるためには、幼稚園からの接続も考慮し、28の基本的な動きを取り入れることが必要ではないだろうか。
運動時の子どもたちがどのような言葉を発するのか分析を行えば、体の変化に気付いたときの指標ができるのではないだろうか。